

## 令和4年度 第61回松浦高等学校入学式 式辞

春の息吹の中に、晴れて長崎県立松浦高等学校の第61回生となった55名の新入生の皆さん、入学おめでとう。皆さんの入学を、学校を挙げて心から歓迎します。

新入生の皆さん自身の喜びはもちろんのこと、これまで大切に育てこられた保護者の皆様のお喜びも一入のことと拝察いたします。お子様の松浦高校へのご入学、本当におめでとうございます。これからの3年間、ともに手を携えて、お子さまの教育に取り組んでまいり所存です。

また、本日はご多忙にもかかわらず、ご来賓の皆様には先ほどの開科式に引き続きご臨席を賜るとともに、このふるさと・松浦、そしてこれからの未来を担う前途有望な若者たちを祝福していただき、誠にありがとうございます。

松浦高校は昨年60周年を迎えるとともに、「シン化する学び舎宣言」のもと、従来の普通科を「シン」化させた地域科学科を設置し、商業科とあわせて、今まさに新しいスタートを切ります。この「シン化する学び舎宣言」のもとで、松浦高校では生徒の皆さんの「学びを深める」、「力を伸ばす」、「進路希望の実現を図る」という目標を掲げており、深めるの「シン」、伸ばすの「シン」、「進路」の「シン」、この「シン」が一つのキーワードとなっています。

皆さんが、この松浦高校での学びを通じて成長することを願って、心に留めておいてほしいことを二つ述べたいと思います。

一つめは「チャレンジする」ということです。人生は「チャレンジ」の連続です。皆さんが、高校に入学するのも一つのチャレンジですし、松浦高校での学習や部活動も「チャレンジ」となるはずです。また、松浦高校が「シン化する学び舎宣言」のもとで新しいスタートを切ったことは、新入生の皆さんのみならず、私たち教職員にとっても大きなチャレンジです。人生の選択をしたり、状況に変化が生じたり、新しいことに取り組んだりする場面は、常に「チャレンジ」ということです。

メジャーリーガーの大谷翔平選手、今朝のメジャーリーグ開幕戦で、史上初の開幕投手と1番指名打者の二刀流として出場しました。大谷選手は「チャレンジ」に関して、「誰もやったことがないことをやりたい」という気持ちがすごくあります」と述べています。また「チャレンジ」するに当たって、「自分がどこまで出来るかということに関しては制限はいりません」とも述べています。

自分自身の力を少しでも伸ばしたい、無限の可能性にかけて全力で取り組もうとする前向きな気持ち、そしてその自分自身に期待をかけ「チャレンジ」しようとしている姿がこの短い言葉からも伝わってきます。しかも、大谷選手は自分自身にかけた期待を裏切らない努力を続けていることは、結果が証明しています。

ただし、一人の力だけで「チャレンジ」し続けることは難しいのも事実です。この困難を乗り越えるためにも、皆さんを支えてくれる仲間、本物「仲間」、「シン」の仲間、「シン」の友人を作ってください。

松浦高校では全国的にも知られている「まつナビ」の活動があります。「まつナビ」は1年という長い時間をかけて取り組みますので、成果が求められます。しかし成果と同じくらい重要なのが課題解決に向けたプロセスです。課題解決にむけて、チームで地域に出かけてったり、議論しあったり、解決策を探ったりします。「まつナビ」というチャレンジを通して、ぜひ「シン」の仲間を作ってください。

55名の新入生同士の出会い、先生方との出会い、部活動の顧問の先生や先輩方との出会い、地域の方々との出会い、こうした「シン」の仲間との縁を大切にしながら「チャレンジ」してほしいと願っています。

二つめは、「チャレンジ」を通じて、「シン」の自分を追い求めてほしい、ということです。この4月から成人年齢が18歳に引き下げられました。皆さんは、高校3年生の時に成人となります。さらに、高校卒業後には、次のチャレンジが待っています。高校に入学したばかりの皆さんには実感が伴わないかもしれませんが、三年後のチャレンジは大きな決断が伴うものとなります。また、成人になるということは、責任を伴うことにもなります。

皆さんが生きていく社会は、まさに予測困難な社会であり、これまで日本社会が求めてきたような、「効率よく正解を出す」ことから脱却し、新たな価値を生み出していくことが求められます。

Radwinpsの『正解』という歌に、「ああ 答えがある問いばかりを 教わってきたよ だけど明日からは 僕だけの正解をいざ 探しにゆくんだ また逢う日まで」という歌詞があります。

皆さんが自分自身にとっての正解を探しに行くために、松浦高校での三年間で、「自分とは何者だ?」「自分は社会の中で、世界の中でどう生きるべきか?」と、自分自身と向き合い、自分自身の頭で考え、「シン」の仲間と語り合い、価値観を磨いてください。そして、未来に大きく羽ばたくための力、松高の校訓にもある「自己開拓」するための力を身に付けていくことを切に願っています。

「他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる」  
私たちは、自分自身の手で未来を変えよう、未来を切り拓こうと努力する皆さんを全力で支援します。そのことを約束して、私からの式辞といたします。

令和4年4月8日

長崎県立松浦高等学校長 舟越 裕